

現場見学会 次第

主 催 一般社団法人大阪建設業協会
協 力 NEXCO西日本・奥村組土木興業
日 時 平成26年12月1日(月)
13:30～15:30
場 所 新名神高速道路城陽ジャンクション工事

1. 建設現場概要説明等

2. 現場見学

3. 質疑応答

見学時には引率者が付きます。指示に従い、行動してください。

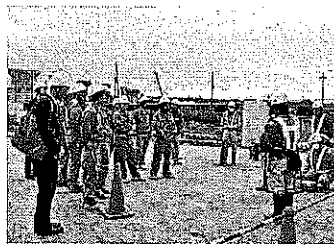
【注意点】

- ① 安全のため、見学エリア以外には立ち入らないようお願いします
- ② 服装（身だしなみ）、聞く姿勢などマナーを守ってください。
- ③ 現場作業中の機械に注意。（引率者の指示に従ってください）
- ④ 工事機械、工具等には触れないようお願いします。
- ⑤ 足元が悪いので注意願います。

西野田工科校生が参加

新名城陽JCTで見学会

大建協



大阪建設業協会は1日、新名城陽JCTで

シヤンクシヨ工場の現場見学会を開いた。大阪府立西野田工科高等学校

都市工学専科の生徒28人と教員が参加し、熱心に見学した。

西日本高速道路関西支社が整備している新名城陽JCTは新名城陽道路と京奈和自動車道を接続

する。新名城陽道路延長614mに橋台・橋脚37基と盛土工55万2000立方メートルを行う。

現在は橋台・橋脚28基が完成している。進捗率は40%。施工は奥村組土木興業が担当。工期17年3月7日。

見学会では、新名城陽道路の事業や建設概要について説明、安全帯の使用の仕方についての説明を受けた。その後、3班に分かれて、橋梁上に昇ったほか、実際に使用する重機での盛土工事、コンクリート非破壊検査など最新の土木技術を学んだ。

見学会では、新名城陽道路の事業や建設概要について説明、安全帯の使用の仕方についての説明を受けた。その後、3班に分かれて、橋梁上に昇ったほか、実際に使用する重機での盛土工事、コンクリート非破壊検査など最新の土木技術を学んだ。

見学会の意見交換では、生徒から「どのような工事がありますか」「資格は必要ですか」「この

仕事の面白いところはありますか」などの質問があり、若手社員が答えていった。



大阪建設業協会(大建協 葛田守弘会長)は1日、西日本高速道路関西支社が京都府城陽市内で進めている「新名神高速道路城陽ジャンクション(JCT)工事」(施工:奥村組土木興業)の現場に大阪府立西野田工科高校の生徒を招き、見学会を開いた。写真。現地では下部工事が最盛期を迎えており、橋脚や盛り土の施工方法、安全施工の取り

大建協 西野田工高生が城陽JCT現場見学

組みなどを学んだ。

城陽JCTは18年度の開通を目指す城陽〜八幡間に(城陽市寺田金尾〜八幡市美濃山荒坂)の一部を形成し、京奈和自動車道と接続する。橋梁下部工(橋台・橋脚37基)や盛り土工55万2000立方メートルなどを行う工事で、これまでに橋台・橋脚28基などが完成。進捗率は40%に達している。工期は17年3月7日。今後はランプ橋工事も本格化していく。隣接地では木津川を渡河する木津川橋の下部工事(施工:大林組)なども進む。

見学会には、都市工学専科の生徒28人と教員10人が参加。現場事務所で奥村組土木興業の尾崎悟所長ら現場職員、西日本高速道路関西支社新名神京都事務所の職員から事業内容や工事概要の説明を受けた後、現場に移動。学生たちは3班に分かれ、盛り土工事の施工手順や下部工の仕組み・施工方法、コンクリート非破壊検査の仕方、安全帯の付け方など安全施工の取り組みを学んだ。

見学会後、意見交換が行われ、生徒が事前に用意した「どのような資格が必要ですか?」「仕事の面白いところは何?」など10項目の質問に、現場の若手技術者らが丁寧に答えた。建設業に対しては「地図に残る仕事で、将来自分の子どもにも自慢できる」「実際にも科の生徒28人と教員10人がつくることが一番の魅力。仕事に慣れてくると日々やりがいを感じられる」などと答え、建設業界の魅力をPRした。

橋脚の上で熱心に説明を聞く生徒



この橋、どこにつながるの!?

西野田工科高校2年生 城陽JCT現場見学

大建協

大阪建設業協会(豊田守弘会長)は1日、新名神高速道路路城陽ジャンクションの工事現場で、高校生対象の現場見学会を開いた。西野田工科高校都市工学専科の2年生38人が参加。出来上がった橋脚を見て回った。

同現場は、奥村組土木興業が施工を担当。インターチェンジ部の橋梁下部工を進めており、橋台6基、橋脚31基を2017年3月7日までに完成させる。発注者はNEXCO西日本関西支社。当日は3班に分かれ、高さ18メートルの完成した橋脚のてっぺんに上ったり、採用工法や使用されている

鉄筋の種類などについて説明を受けた。このほか安全帯の装着やコンクリートの非破壊用の検査器具なども体験し、興味を深めていた。見学後には現場で働く若手技術者数人と生徒らの意見交換を開催。必要な資格や給料、仕事の魅力などに対する質問が生徒からあった。

入社1年目の男性技術者は「地図に残せるし、将来自分の妻や子どもにも自慢できる」とやりがいを語った。同校の杉山裕二教頭は「学校では経験できないこと。いい経験になったと思う」とし、生徒のさらなる成長に期待を込めた。

